

大阪市内を流れる大川(旧淀川)沿いで、今夏の完成を目指して建設中の「八軒家浜賑わい施設」。水の都・大阪をアピールし、新たなにぎわいを生む拠点施設として計画された。同施設の設計を手掛けたのが、高原浩之氏(HTAデザイン事務所)。「市民の視線」に立った建築づくりを心掛ける。

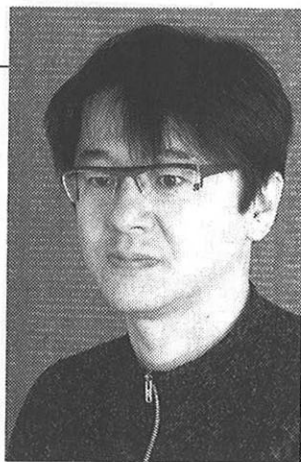
関西 あーきてくと



HTAデザイン事務所

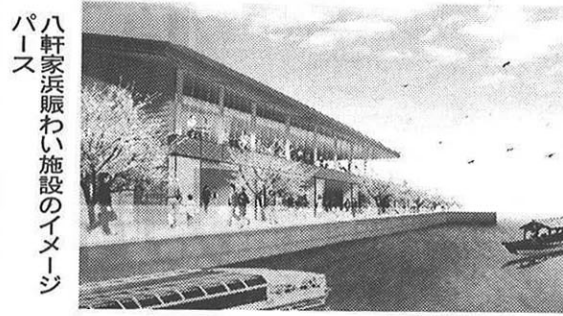
高原 浩之氏

「八軒家浜」とは、大川左岸の河川敷、現在の天満橋(大阪市中央区)から天神橋付近に架けてあった船着場。8軒の船宿があったことに由来し、かつては大阪と京都間の水運の要衝だった。この場



一市民の視線を心掛ける

所を水上バス・タクシーも発着する水上・陸上交通の結節点として位置付け、現代の「八軒家浜」としてよみがえらせようと大阪府が2007年度に事業提案競技を実施。当選した京阪電鉄を代表とするグループの提案を、高原氏が手掛けた。



八軒家浜賑わい施設のイメージパース

とは思わない。巡ってきて生まれたものと、そうでないものとは、必ず違いがある」「楽しく苦悩する」ことは「シーザー・ペリと光井純から学んだ」。1992年から04年まで、シーザー・ペリアンドアソシエーツ(現ペリ・クラーク・ペリ・アーキテクト・ジャパン)に在籍。日本代表の光井純氏の下、シーホークホテル&リゾート(福岡市、95年)、中之島三井ビルディング(大阪市、02年)、国立国際美術館(大阪市、04年)、高松地方合同庁舎(高松市、06年)などのプロジェクトに参画した。建築家に必要なのは気力、体力と人間力」。テクニクだけでなく、一個人として人間関係や状況を切り開くことの大切さも知った。

10年完成予定の滋賀労働総合庁舎(RC造6階建て延べ5416平方メートル、大津市)では、大建設設計とのJVで設計を担当した。「人とのつながりがあったて実現できた。パイを奪い合うのではなく、『高原と組みたい』と思わせるだけの力を養いたい」

公共建築においては、特に「一市民の視線を心掛ける」という。学生時代、住民としての素朴な疑問から、卒業設計のテーマに地元の駅前再開発を選んだ。それから20年以上経過したが、「当時の視線から、大きくはぶれていないつもり」。手描きの設計案は、今も手元に置いてある。

<事務所データ>

- ▷主な作品＝「八軒家浜賑わい施設」「滋賀労働総合庁舎」「仁愛大学」(福井県、09年)「桃坂コンフォガーデンⅢ街区」(大阪市、07年)
- ▷住所＝〒550-0003 大阪市西区京町堀1-8

- 31 安田ビル402号
- ▷電話＝06-6444-0223
- ▷電子メールアドレス＝takahara@htad.co.jp
- ▷ホームページ＝http://www.htad.co.jp/